

コリント 第一

15

「生きている 御言葉の力」

コリント人への手紙 I 14章 異言と預言

コリントの手紙とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …55年頃。 **第3回伝道旅行**の途中
- **執筆場所** …長期滞在中のエペソ
この後、コリントを再訪
- **対象** …コリントのキリスト者たち
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **執筆目的** …過ちを正し信仰の成長を促す
キリストの体なる一致を求める



海を挟んで約250km
陸路を廻れば約1,000km

【当時のコリント】

- アカヤ州(ギリシャ南部)の首都
自由民20万人 + 奴隷50万人 = 計70万人
- 国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- 不道德の代名詞。「コリント人のように」
少年への性愛や複数の愛人も当然。
- 神殿娼婦の存在。偶像崇拜が蔓延。

信仰者の自由をはき違えた放縦が問題に



コリントの遺跡
アクロポリスの丘

序文		1:1~9
罪の叱責	①教会内の分裂	1:10~4:21
	②罪に対する懲戒	5:1~13
	③裁判の問題	6:1~8
	④性的放縦の問題	6:9~20
質疑応答	①結婚	7:1~40
	②偶像に捧げた肉Ⅰ	8:1~,
	③使徒の権利	9:1~27
	④偶像に献げた肉Ⅱ	10:1~
	⑤礼拝における秩序	11:2~34
	⑥聖霊の賜物	12:1~14:40
	⑦復活	15:1~58
	⑧献金	16:1~12
あいさつ		16:13~24

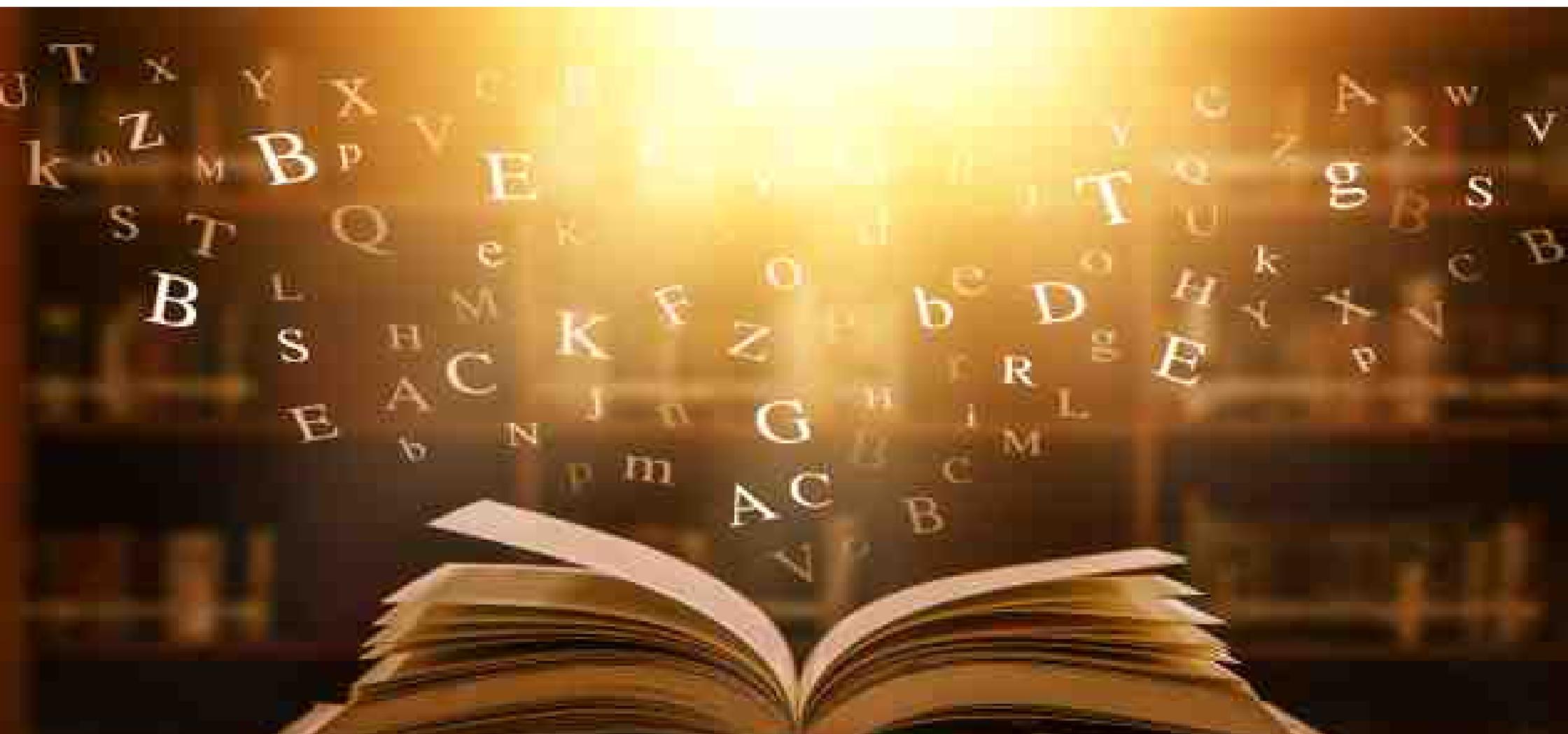
最大のテーマ
神の秩序



- 秩序
- 秩序
- 秩序
- 性
- 性
- 偶像
- 秩序
- 偶像
- 性
- 秩序
- 秩序
- 秩序

聖霊の賜物をめぐる議論

- **聖霊の賜物**とは、福音を信じたすべての信者に与えられているもの。
キリストのからだの一部として与えられた、**奉仕のための賜物**。
- 信者には、聖霊の賜物による多様な役割があるが、優劣はない。
共に苦しみ、喜ぶことが、クリスチャンの奉仕の本質。
- 第一に求めるべき、何にもまさる賜物は、**約束に基づく神の愛**。
その本質は、私たちの罪のために十字架にかけられた**キリストの愛**。



I. 異言より預言を

Iコリント14章1~19章

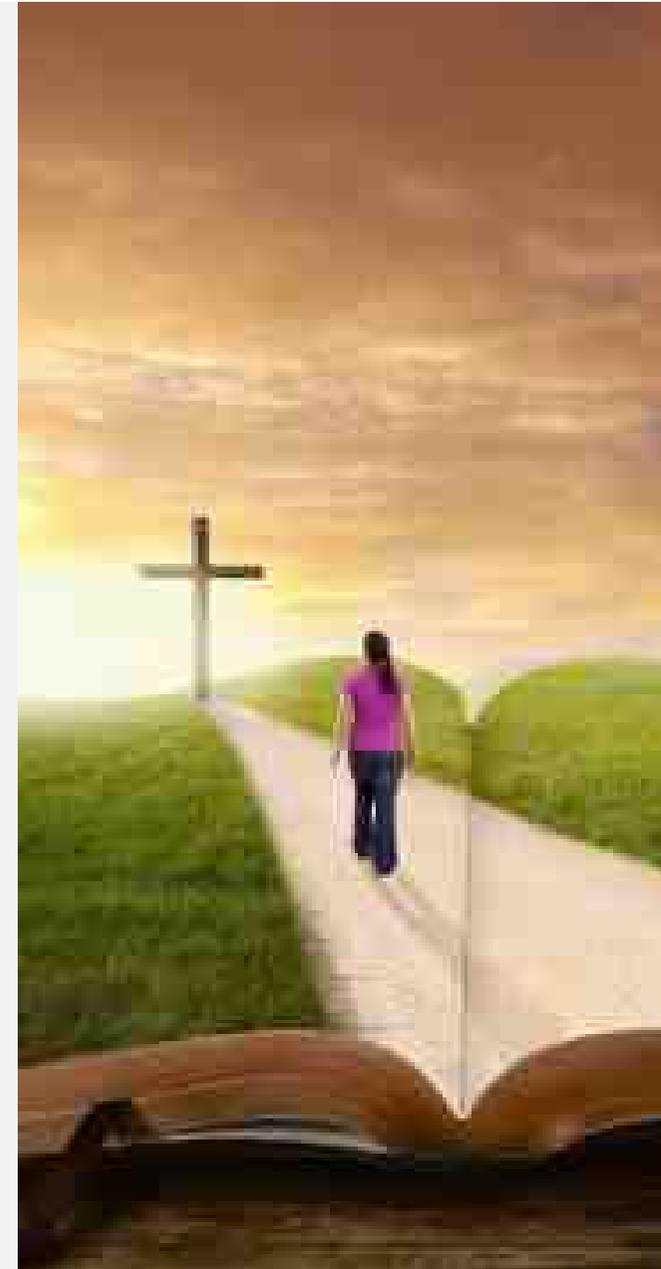
【求める優先順位】 | コリント14:1~2

愛を追い求めなさい。また、御霊の賜物、特に**預言**することを熱心に求めなさい。

異言で語る人は、人に向かって語るのではなく、神に向かって語ります。だれも理解できませんが、御霊によって奥義を語るのです。

■優先順位は

①**神の愛** → ②**預言** → ③**異言**



預言とは？ 異言とは？

■ 預言とは？

その人を通して直接伝えられた**神の言葉**

→ 預言として語られた言葉は、100%正しいのが前提**(絶対性)**

その時代を通して生き続け、廃れることはない。**(普遍性)**

新約聖書が未完成のこの時代には盛んに預言がされていた。

■ 異言とは？

当人の**知らない言語**で話される言葉

→ その言語を知っている人がいれば、理解できる(使徒2章)。

そうでなければ、**異言を解き明かす賜物**のある人が必要。

【個人か教会か】 1コリント14:3~4

しかし**預言**する人は、人を育てることばや勧めや慰めを、人に向かって話します。**異言**で語る人は**自ら**を成長させますが、**預言**する人は**教会**を成長させます。

- ▶ **預言**は、**教会**(信者の共同体)を成長させる。
- ▶ **異言**は、語る**個人**を成長させる。



【異言に優先すること】 1コリント14:5～6

私は、あなたがたがみな**異言**で語ることを願いますが、それ以上に願うのは、あなたがたが**預言**することです。**異言**で語る人がその解き明かしをして教会の成長に役立つのでないかぎり、**預言**する人のほうがまさっています。ですから、兄弟たち。私があなたがたのところに行って**異言**で語るとしても、啓示か知識か**預言**か教え*によって語るものでなければ、あなたがたに何の益になるでしょう。

*いずれも、神が明確に語られた、理解可能なこと

啓示、知識、**預言**、教え > **異言**

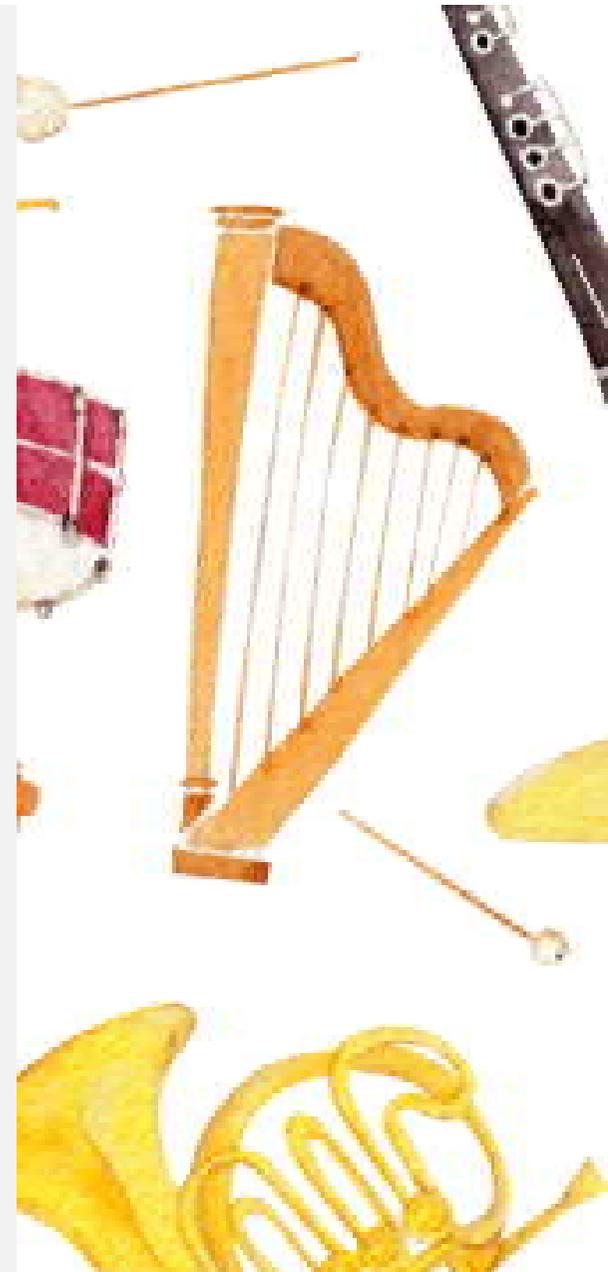


【言葉と旋律】 Ⅰコリント14:7～8

笛や豎琴など、いのちのない楽器でも、変化のある音を出さなければ、何を吹いているのか、何を弾いているのか、どうして分かるでしょうか。

また、ラッパ*がはっきりしない音を出したら、だれが戦いの準備をするでしょう。

*進軍ラッパ



【言葉は明瞭】 1コリント 14:9～10

同じようにあなたがたも、舌で明瞭なことばを語らなければ、話していることをどうして分かってもらえるでしょうか。空気に向かって話していることになります。

世界には、おそらく非常に多くの種類のことばがあるでしょうが、意味のないことばは一つもありません*。

*その“異言”は、明瞭で旋律を持った意味のある一つの言語だろうか？



【求めるべき賜物】 | コリント14:11~12

それで、もし私がそのことばの意味を知らなければ、私はそれを話す人にとって外国人であり、それを話す人も私には外国人となるでしょう。

同じようにあなたがたも、御霊の賜物を熱心に求めているのですから、教会を成長させるために、**それ***が豊かに与えられるように求めなさい。

*次節で、“**解き明かしの賜物**”と分かる

■コリント教会には、**異言**の賜物はあっても、“**解き明かしの賜物**”が欠けていたのだろう。



【解き明かしの賜物】 | コリント14:13~14

そういうわけで、**異言**で語る人は、それを**解き明かす**ことができるように祈りなさい。

もし私が**異言**で祈るなら、私の霊は祈りますが、私の知性は実を結びません。

- **異言**は、**解き明かし**とセットであるべき!!
- **異言**だけでは知的な成長はもたらされない。



【解決策】 1コリント14:15~15

それでは、どうすればよいのでしょうか。私は**霊**で祈り、**知性**でも祈りましょう。**霊**で賛美し、**知性**でも賛美しましょう*。

そうでないと、あなたが**霊**において賛美しても、初心者の席に着いている人は、あなたの感謝について、どうしてアーメンと言えるでしょう。あなたが言っていることが分からないのですから。

- 祈り、賛美では、**霊**的側面が強調されがちだが。
知性・明瞭な言葉による祈り、賛美も必要。



【感謝】 1 コリント14:17~18

あなたが感謝するのはけっこう*ですが、そのことでほかの人が育てられるわけではありません。

私は、あなたがたのだれよりも多くの**異言**で語っている*ことを、神に感謝しています。

*“主へのあふれでる感謝が**異言**だ”と、
コリントの人々は主張していたのだろう。

*パウロは決して**異言**を否定していない。
パウロ自身も多くの**異言**を語っていた。



【異言より知性のことば】 | コリント14:19

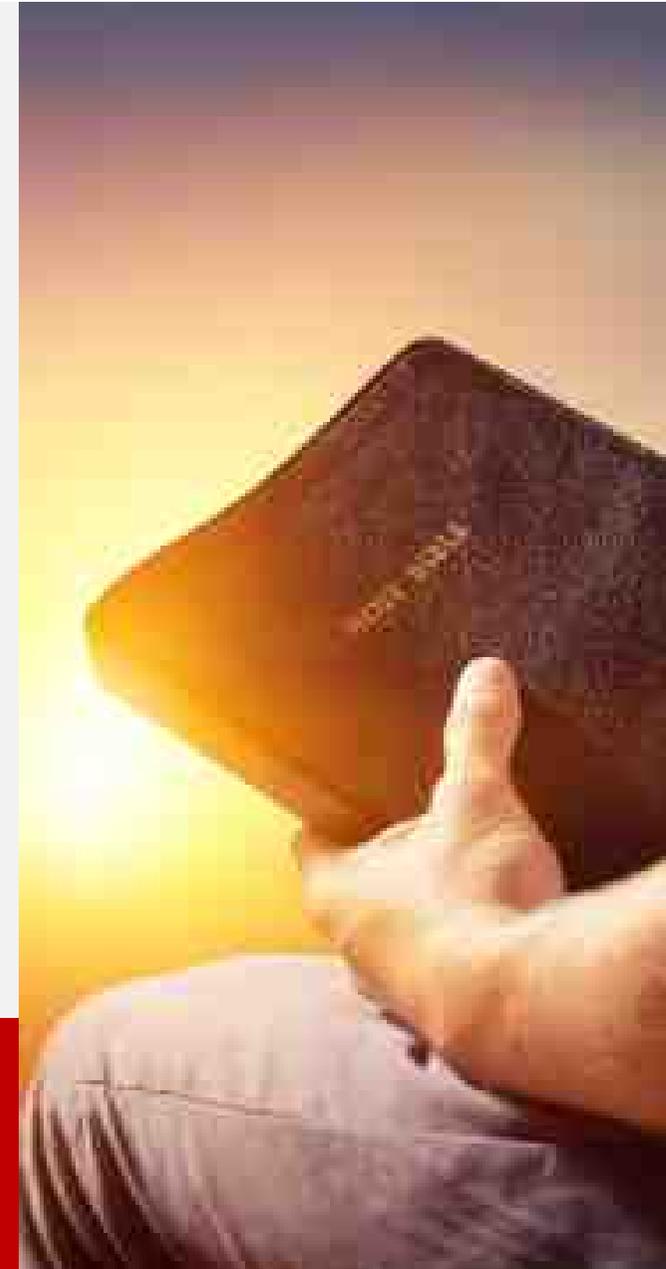
しかし教会では、異言で一万のことばを語るよりむしろ、ほかの人たちにも教えるために、私の知性で五つのことばを語りたいと思います。

■教会は、キリストの体。

大切なのは、体全体の成長。

キリストの体を成長させるのは、神の言葉。

教会で大切なのは、賛美よりも祈りよりも
何より聖書の御言葉の学び



A photograph of a baby from behind, wearing a white long-sleeved shirt and pink pants, pushing a wooden toy cart with green wheels on a light-colored floor. The background is a bright, out-of-focus window or balcony area.

Ⅱ. 幼子からの脱却を I コリント14章20～25節

【大人になれ】 1コリント14:20

兄弟たち、考え方において子どもになってはいけません。悪事においては幼子*でありなさい。けれども、考え方においては大人になりなさい。

*幼子ほど、犯す罪も小さい。

人の悪事の大きさは、知識、知能に比例する。

**聖書は明確に 信者に信仰の
成長を求め、促している!!**



【二つのしるし】 1コリント14:21～22

律法にこう書かれています。「『わたしは、異国の舌で、異なる唇でこの民に語る。それでも彼らは、わたしの言うことを聞こうとはしない(イザヤ28:11～12)』と主は言われる。」

それで異言は、信じている者たちのためではなく、信じていない者たちのためのしるしであり、預言は、信じていない者たちのためではなく、信じている者たちのためのしるしです。

- 神の言葉が理解できない → 不信仰のしるし
- 神の言葉が理解できる → 信仰のしるし

バビロン捕囚で
イスラエルは経験



【神の言葉の力】 1コリント14:23～24

ですから、教会全体が一緒に集まって、皆が**異言**で語るなら、初心の人か信じていない人が入って来たとき、あなたがたは気が変になっていると言われることにならないでしょうか。

しかし、皆が**預言**をするなら、信じていない人や初心の人が入って来たとき、その人は皆に誤りを指摘され、皆に問いただされ、心の秘密があらわにされます。こうして、「神が確かにあなたがたの中におられる」と言い、ひれ伏して神を拝むでしょう。

明瞭に語られる 神の言葉に力がある



ヘブル人への手紙 4章12節

神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、
たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、
心の思いやはかりごとを見分けることができます。

Ⅲ. 教会の秩序

I コリント14章26～40章



【第一の目的】 1コリント14:26

それでは、兄弟たち、どうすればよいのでしょうか。あなたがたが集まる時には、それぞれが**賛美**したり、**教え**たり、**啓示**を告げたり、**異言**を話したり、**解き明か**したりすることができます。そのすべてのことを、**成長に役立てるため**にきなさい。

■ **異言(+解き明かし)**は、礼拝の一要素。

■ 常に吟味されるべきは、

→ **そこに集う人々(=教会)の**

成長に役立っているかどうか？

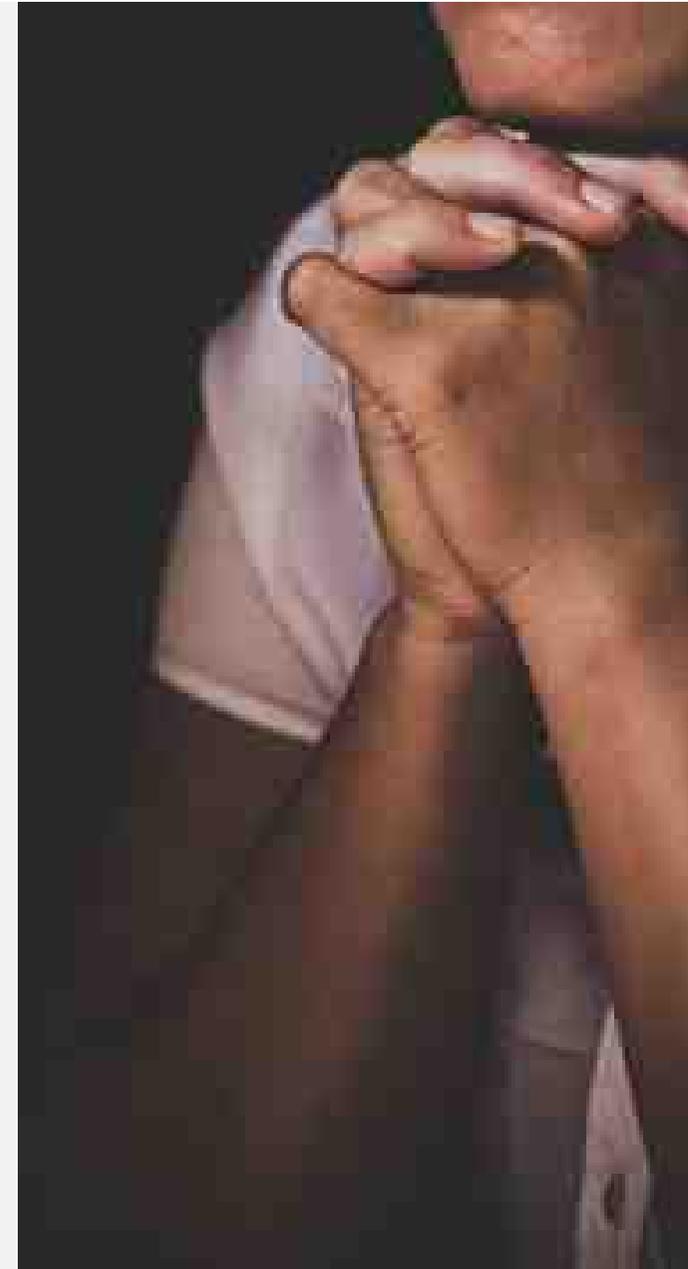


【異言にも秩序を】 | コリント14:27~28

だれかが異言で語るのであれば、二人か、多くても三人で順番に行い、一人が解き明かしをしない。

解き明かす者がいなければ、教会では黙っていて、自分に対し、また神に対して語りなさい。

- 異言を公の集まりで語ることができるのは、解き明かす人がいる時のみ。 → 原則
- 慎重な取り扱いが必要なのが異言の賜物



【預言にも秩序を】 | コリント14:29~31

預言する者たちも、二人か三人が語り、ほかの者たちはそれを吟味しなさい。

席に着いている別の人に啓示が与えられたら、先に語っていた人は黙りなさい。

だれでも学び、だれでも励ましが受けられるように、だれでも一人ずつ預言することができるのです。

- 語っているのは一人という状態を保つこと。
人々が一つ一つ聞いて、理解できるように。



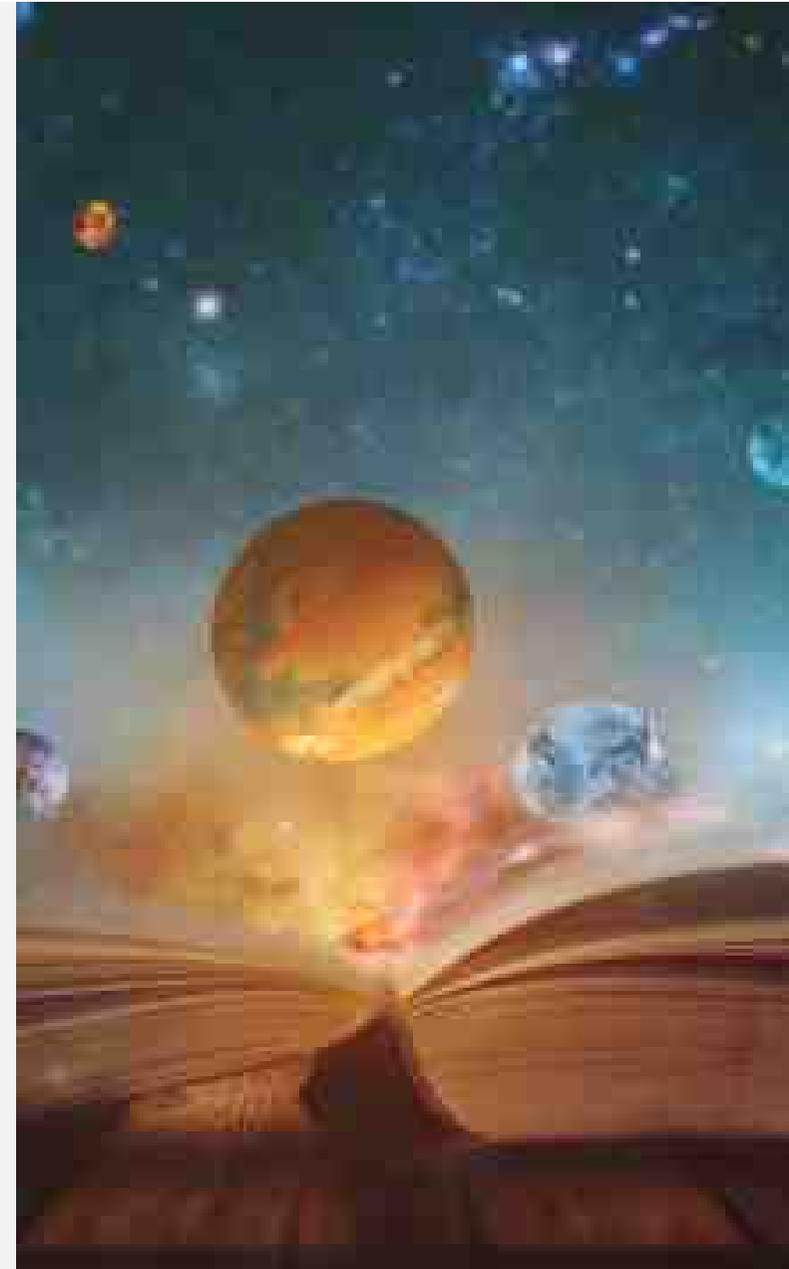
【神の平和】 | コリント14:32~33 a

預言する者たちの霊は預言する者たちに従います*。神は混乱の神ではなく、**平和の神***なのです。

*預言する者たちは理性を失うことはない。

*神の**平和**は、創造主の秩序に基づくもの

→罪が世に混沌をもたらし、
神の秩序が平和を実現する。



【婦人たちへ】 | コリント14:33b~34

聖徒たちのすべての教会で行われているように、女の人*は教会では黙っていなさい。彼女たちは語ることを許されていません。律法も言っているように、従いなさい*。

*“ギュナイケス” …婦人。妻。

*夫が妻に聞き従ったのが、アダムの罪。

妻が夫に従うのが、神の律法の定め。

律法の呼びかけは、すべて男性形。

■ 神 → 男(夫・一家の長) → 妻・子



コリントでは
語る婦人たちが
強い影響力を!!

【教会では】 | コリント14:35

もし何かを知りたければ、家で自分の夫に尋ねなさい。教会で語ることは、女の人*にとって恥ずかしいことなのです。

*“ギュナイケス” …婦人。妻。

■パウロの主張は明確。

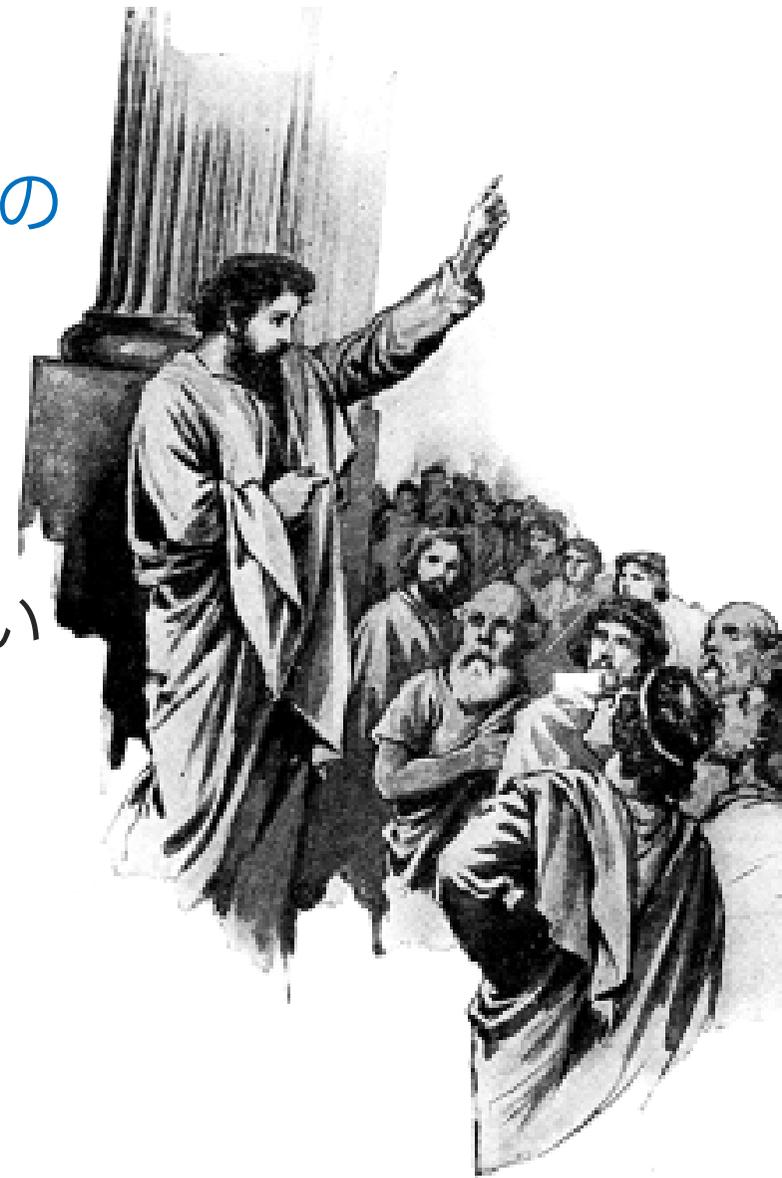
■コリントの混沌の原因の一つが語る婦人たち。
教会で主導権を握っていた女性たちの存在。



【傲慢に陥る人々】 | コリント14:36~38

神のことは、あなたがたのところから出たのでしょうか。あるいは、あなたがたにだけ伝わったのでしょうか。

- 異言の賜物を強調し、自分たちだけが正しいように振る舞う人々が、コリントの教会にのさばっていた。
- パウロや、他の使徒や教師たちの教えを軽んじる人々も少なくなかったのだろう。
→その中心は、異邦人の信者たち。



【偽預言者を無視せよ】 1コリント14:37~38

だれかが自分を預言者、あるいは御霊の人と
思っているなら、その人は、私があなたがたに
書くことが主の命令である*ことを認めなさい。

それを無視する人がいるなら、その人は無視
されます。

*パウロがこの書簡に記したのは真実の御言葉。

→主イエスと使徒たちの教えに完全に一致。

■“聖書は無視した預言者”などありえない。

→“偽預言者”は毅然として無視するべき!!

自称預言者が
いっぱいいた!!



【適切に秩序正しく】 | コリント14:39~40

ですから、わたしの兄弟たち、**預言**することを熱心に求めなさい*。又、**異言**で語ることを禁じてはいけません*。ただ、**すべてのことを適切に、秩序正しく行いなさい***。

*使徒時代の預言は永遠の価値を持つものに!!

*異言は悪くない。誤解のないように念押し。

*結論。**教会の秩序の回復**がこの書簡のテーマ。

**私たちの教会と信仰生活は
神の秩序の下に営まれているだろうか**





IV. まとめと適用 平和をもたらす神の秩序を求めよう

14章34～35節を背景から考える

- 当時の文化では、公の場での婦人の発言は恥とされていた。
 - ➔ 未信者をつまづかせない配慮が、一つの理由にあっただろう。
- 教会では、女性も、集会の秩序の下で、祈りや預言を行えた(11:5)
 - ➔ コリントでの問題は、あまりに自由奔放な婦人たちの発言。
 - 異言を語り、霊的な力を誇示する、支配的な婦人もいたのだろう。
 - ➔ 集会の流れを妨げたり、教会に大きな混乱をもたらしていた。
 - ➔ 教会の秩序を保つために、彼女たちを沈黙させる必要があった。

14章34～35節を聖書の秩序から考える

- 夫が妻に聞き従ったのが、アダムの罪。
- 妻が夫に従うのが、神の律法の定め。
律法の呼びかけは、すべて、“男は” と、男性形から始まる。
神 → 男(夫・一家の長) → 妻・子
- 足元で熱心に聞いていたベタニアのマリアへの主イエスの評価。
「必要なことは一つだけです。マリアはその良いほうを選びました。
それが彼女から取り上げられることはありません。ルカ10:42」

御言葉の伝達には秩序がある。学びを妨げるものはない。

14章34～35節の鹿追教会での適用を考える

■ 個人的体験では、カルト化した教会の背後に支配的な女性の存在が。
例) とある女性宣教師、牧師夫人、代表の妻…。

■ 鹿追での礼拝・集会の現状

▶ 司会、メッセンジャー → 聖書塾卒業。代表・副代表。男性。

▶ 祈り、聖書朗読、証し、奏楽、こどもの集会のメッセンジャー

→ 男女の別なし

▶ 分かち合い → 礼拝・集会とは別枠で。牧師が司会進行。

参加、発言は、男女の別なし。

聖書の神は秩序ある平和の神

- コリントの最大の問題は、自由を取り違えた無秩序による混乱。
分派、性的乱れ、賜物の濫用、支配的な女性たち →根は同じ
- 罪が地上にもたらしたのが、混沌。
自由を求める革命は、さらに悪化し腐敗した独裁を生んだ。
まれな例外が、建国当初のアメリカ。→信仰者が主体だった!!
- 最終的に完全な平和をもたらすのは、栄光の王、再臨の主イエス。
神の国とは、罪から解放され、神の秩序が完全に回復された世界。

御言葉を土台に、神の秩序、キリストによる自由を求めていこう

ヤコブの手紙 3章13～18節

あなたがたのうちで、知恵があり、分別のある人はだれでしょうか。その人はその知恵にふさわしい柔和な行いを、立派な生き方によって示しなさい。

しかし、もしあなたがたの心の中に、苦々しいねたみや利己的な思いがあるなら、自慢したり、真理に逆らって偽ったりするのはやめなさい。

そのような知恵は上から来たものではなく、地上のもの、肉的で悪魔的なものです。

ヤコブの手紙 3章13～18節

ねたみや利己的な思いのあるところには、秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行いがあるからです。

しかし、上からの知恵は、まず第一に清いものです。それから、平和で、優しく、協調性があり、あわれみと良い実に満ち、偏見がなく、偽善もありません。

義の実を結ばせる種は、平和をつくる人々によって平和のうちに蒔かれるのです。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、
①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、
②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

主の命のみことばを切に慕い求めます。

よき知らせを伝える神の使者として、世に遣わし、用いてください。
どうか混沌を深める世界に、主の平和の秩序をもたらしてください。
神の国を待ち望みます。

マラナタ。主イエスよ、来てください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」